

## 中学校技術・家庭科におけるロールプレイングの教育的効用について（第3報）

—家族とのかかわりをみつめ直すロールプレイングを取り入れた教材の開発—

The educational effect of role playing in junior high school technical-home economics course (the home field) (The 3rd report)

中村 純子\* 夫馬佳代子\*\*

NAKAMURA Junko and FUMA Kayoko

[要約] 中学校技術・家庭科（家庭分野）における「家族と家庭生活」の学習活動であるロールプレイングでは、設定場面によって、シナリオが親子の対立に終始してしまい深まりがみられないとの問題点があった。そのため、場面の提示方法を一文形式でなく物語形式で始めること、ロールプレイングの活動のよさを実感できるようにペアによるプレ活動的な段階を仕組むこと、生涯発達の視点を盛り込んだものにする等、改善を加え学習過程を仕組み授業実践を行った。その結果、家族それぞれの立場を互いに理解し合う展開のシナリオとなり、ロールプレイングの活動を通して、家族の在り方について考えを深めることができた。

[キーワード] ロールプレイング, 家族, 家庭生活, 中学校, 家庭科

### 1. はじめに

中学校技術・家庭科では、学習指導要領の平成元年改訂において「家庭生活」の領域が「情報基礎」とともに新設され、この領域における実践的・体験的な学習をめざす活動の一つとして、ロールプレイングの取り入れが挙げられている。現行の学習指導要領では、家庭分野の内容B「家族と家庭生活」のうち項目「(1) 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり」, 「(2) 幼児の発達と家族」及び「(3) 家庭と家族関係」については相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意することとあり、また、指導にあたっては、生徒個人のプライバシーに十分配慮する必要があるとされている。

ロールプレイングを取り入れた授業実践については既に、岐阜大学教育学部研究報告（人文科学）第56巻1号により、生徒が作成したシナリオにみられる発言をもとにして分析し、第56巻2号では、授業後の生徒の意識調査について記した。

「家族と家庭生活」におけるロールプレイングでは、中学生が等身大の役割を演じることもあれば、兄弟姉妹、親、祖父母の役割を演じることもある。そのため、ロールプレイングのシ

ナリオには、「中学生が家族をどのように見ているか」という自分から家族への見方と「中学生である自分が、家族からどう思われているか」という家族からみた自分の両方の家族観を捉えることができる。

家族とのかかわりをみつめ直すロールプレイングであるためには、年長者である親や祖父母、兄や姉に対する尊敬や感謝、いたわり、思いやり、年少者である弟や妹に対するいたわりや思いやり、優しさという観念の表れが大切である。

これまでの研究により、設定場面によって、シナリオの展開や、この観念の出現の様子に違いがあることが明らかとなった。中学生の時期は、思春期を迎え、親とも対立しやすい傾向にあるため、生徒にとって身近な場面を取り上げると、シナリオの展開においても家族との対立に終始してしまい、家族とのかかわりにおいて自分をみつめ直し、自己変容をめざしたり、よりよく家族とかわっていきこうという観念の表れが少なかったりする展開になる傾向がみられた。

そこで、ロールプレイングにおいては、今現在の中学生としての生活にとどまらず、「これからの生活を展望する」という、生涯発達の視点を盛り込んだ場面設定にする必要があると考えた。また家族一人一人が置かれた状況が理解できるように物語形式をとった。加えて、生徒個人へのプライバシーの配慮という点でも次の点を考慮した。

学級の生徒たちは、様々な家庭環境において

\* 岐阜大学教育学部・家政教育講座  
家政教育専攻（羽島市立中央中学校）

\*\*岐阜大学教育学部・家政教育講座

生活しており、この題材の授業を実践するにあたって、その理解が不可欠である。が、最近では個人情報保護の立場から、必ずしも、授業前に十分な理解や配慮が出来るとは限らない。ことに中学校の場合は、教科担任による授業のために、担任との連携が無いと、配慮が足りなのまま授業に臨むことも起こり得る。この点を踏まえ、筆者は、授業実践にあたり、4月から、毎時間、授業クラスの家庭分野の授業をサポートする形で、授業の場でT2として入り生徒とのつながりがもてるようにしてきた。

本実践は、そうした取り組みによる生徒とのつながりや、学級担任との連携を踏まえて臨んだ、ロールプレイングを取り入れた、「家族と家庭生活」の題材の授業実践である。

## 2. 研究方法

### (1) 学級の実態調査

1年1組35名, 1年2組34名

### (2) 授業実践と省察

期間 平成19年10月～12月 全7時間

## 3. 結果及び考察

### (1) 授業実践学級の実態

授業クラスは、岐阜県H市1年生4学級のうちの2学級で実施した。1組, 2組の生徒の家族構成は表1の通りである。

表1 授業クラスの家族構成

		1年1組	1年2組
家族構成	3世帯	9人	10人
	夫婦と子	24人	18人
	女親と子	2人	5人
	その他	0人	1人

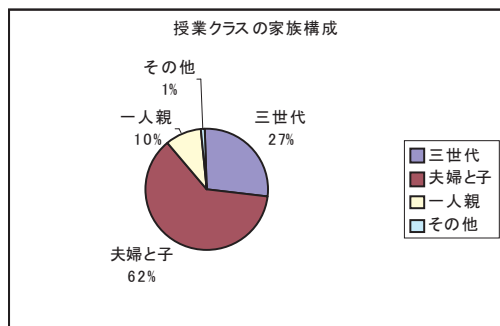


図1 授業クラスの家族構成

### (2) 実態からの配慮事項

3世帯家族は、学級の27%である。学級は6つの班で生活班が組織されている。27%という

割合は、どの班にも3世代家族の生徒が一人はいるという計算にはなるが、その一人を除いて他の生徒はすべて、祖父母と普段から接していない生活を送っていることになる。そのため、祖父母が登場する場面設定においては「普段、家に居ない人だからわからない」という捉えではなく、これから起こり得る問題、誰もが、高齢者の立場になる時が来るという認識をもって臨めるよう手立てをうつことが必要であると考え。

ロールプレイングを取り入れた学習で、生徒が演じる役割は、班の話し合いによって決定されるため、必ずしも、普段生活を共にしていない人の立場になる可能性がある。また、一人親世帯の生徒も10%ではあるが、家庭や家族の学習に対して、少なからず抵抗を感じたり、仲間との話し合いに消極的になったりする生徒もいると思われる。担任との打ち合わせにおいても、「この生徒は一人親世帯(母と子)なので配慮してほしい」と言われる生徒もみられた。

ロールプレイングでは父母共に登場する場面設定が多く、こうした生徒が、学習を進める中で、自分の家庭の環境に対して、引け目を感じたり辛く感じたりすることがないように、ロールプレイングを取り入れた学習活動の前に「家族の形態は様々であること」を知らせることを盛り込む必要があると考えた。

以上の実態から題材設定にあたり、下記の2点を盛り込んだ。

- ・家族には様々な形態があることや変化し続けることを知らせることで、学級の一人ひとりが自分自身の家族や家庭環境について、前向きに捉えることができるようにする。
- ・現在に限定した家族や家庭への見方ではなく生涯の見通しをもって起こり得る問題を盛り込んでいく。

授業実践は、平成19年10月～12月にかけてであったが、生徒を十分に理解して授業に臨むことができるように、授業実践をする学級の家庭分野の授業に、4月当初から指導援助という形で入り、少しでも心のつながりがもてるように努めた。

### (3) 授業実践

#### 1) 題材構想にあたって

以上の点から、表2にあるような題材構想をもった。

表2 「家族の今、そしてこれから…」 題材指導計画

授業の流れ	ねらい	主な学習活動	資料・活動
①家族をみつめよう	家族には様々な形態があることを知り、家族の結びつきには、互いに心が通い合っていることが大切であることを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な家族形態を資料から捉え、家族といえるかどうかを話し合う。</li> <li>家族とは、何だろうか？</li> <li>家族であるかどうかについて、根拠を明らかにして話し合う。</li> </ul>	家族の形態の資料
②家族であれば心は通じ合えるのか	家族であっても、心が通じ合うためには、互いのコミュニケーションが大切であることを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族をテーマにした新聞広告が何を訴えているのかを話し合う。</li> <li>家族間で起きた問題を新聞記事から取り上げる。</li> <li>もっとも身近な関係である家族なのに、なぜ様々な問題が起きるのだろうか？</li> <li>問題が起きた背景について交流する。</li> </ul>	新聞広告 新聞記事
③おたがいの気持ちを分かり合うには	中学生の時期は思春期を迎え、自己の意識や感覚が強くなり、親とも対立しやすくなることを知り、ペアによるロールプレイングを通して、相手の立場を尊重することが大切であることを実感することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子で言い合いをする場面の状況を捉える。</li> <li>自分とはちがう立場になって、相手とのかかわりを考えよう</li> <li>ペアで親子となり、ロールプレイングを演じ、相手とのかかわりで、どんな思いになったのかを交流する。</li> </ul>	場面状況を捉える資料 ペアでの役割演技
④家族の今、そしてこれから… 場面設定、役割設定、シナリオ作成	家族は、年を経るごとに一人ひとりの生活の仕方や考え方が変化してくるために、様々な問題が起き得る可能性があることを知り、これからの生活を見通し、家族とのかかわりを具体的に考えていこうとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の家族や家庭について、資料や新聞記事から捉える。</li> <li>家族とのかかわりは、どのように変化していくのだろうか？</li> <li>家族の状況の変化や起こり得る問題点を交流する</li> <li>具体的な場面を想起し、ロールプレイングの場面や役割について班で話し合い決定する。</li> </ul>	統計資料 設定場面についての物語形式の資料
⑤家族の立場になって演じてみよう シナリオ完成、 班内練習	家族一人ひとりのかかわり方が、相手の立場や役割を理解してのものであるのかどうかを、ロールプレイングを通して見つめ直し、家族関係をよりよくするかかわり方を、それぞれの立場で考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの気持ちが通じ合うような家族とのかかわりを考えよう</li> <li>班ごとに、シナリオの展開、家族一人一人のセリフを考える。</li> <li>実際に演じてみて、家族一人ひとりの気持ちの理解につながるものであるのかを見直し修正する。</li> </ul>	役割を示す ペーパーサート
⑥⑦家族と共に暮らし続けるために… 発表会、交流会 学習のまとめ	班で話し合ったシナリオをもとに発表、交流をすることを通して、家族が互いに助け合うには、各自がそれぞれの立場でどうあったらよいかを考え、実践していくことが必要であることを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰のどの言動が、家族の心を動かしたのだろうか？</li> <li>班で考えたロールプレイングを演じて発表する。</li> <li>各班の発表から、家族の気持ちを動かしたと思われる言動を書き留め、それが誰のどんな気持ちを配慮してのものであったのかを発表する。</li> <li>家族の一員として、家族関係をよりよくするために、自分にはこれからどのようなことができるのかを考える。</li> </ul>	役割を示す ペーパーサート

2) 授業の実際

(1) 第1時：家族とは、何だろう？

T：今日から、新しい題材の学習をします。家族の学習です。ここの学級は35人だから35通りの家族がありますね。先生なら中村家です。では、これから見せる家族は、家族かな？家族じゃないかな？ちょっと見てください。



T：(ちびまる子ちゃんの家族の絵を貼る。) 何家？  
 P：桜家  
 T：何人家族？  
 P：(数えながら) 6人  
 T：2軒め(キッズ・ウォーの家族写真を貼る) これは何家？  
 P：今井家  
 T：3軒め(ドラえもんを貼る) これは？  
 P：野比家  
 T：漫画やドラマで実際には存在しないんだけど、3軒の人たちは家族でしょうか？  
 S男：家族だと思う。  
 H男：S君と同じで家族だと思う。わけは、同じ姓だから。  
 K男：野比家は違う。ドラえもんは家族に入っていない。  
 Y男：ドラえもんは未来から来たロボットだから野比家は家族じゃない。  
 K女：ドラえもんは未来から来たから、他の人とは血がつながっていないから家族じゃない。キッズ・ウォーの今井家は、お母さんとお父さんが再婚した。だから血がつながっていない。  
 T：確かにドラえもんやキッズ・ウォーは、血がつながっていないね。  
 (キッズ・ウォーの家族構成を板書で示す)  
 T：実は、このドラマは、最初は、2つの別々の家族だったんだけど、事情があって、例えば離婚したとか、病気や事故で亡くなったとか…そしてその後、再び結婚して、(再

婚) 家族となったんだね。今井家には、子どもは4人いるけど、血はつながっていないね…ということは、これは、家族なのかなあ？

P：家族だと思う、家族じゃないと思う(両方の意見が聞かれる)

課題 家族とは、何だろう？

A男：確かに血はつながっていないけれど、きっと、それぞれの親は、自分の本当の子どものように思っていると思うし、だんだん生活していくうちに、つながりが深くなっていくんだと思う。

T：テレビのドラマでも、対立し合いながら問題を解決していく様子が描かれてました。では、野比家でドラえもんはロボットだから家族じゃないという考えが出たけれど…ドラえもん自身は、どう思っているのかな？

M男：ドラえもんは、自分は野比家の家族だと思っていると思う。のび太君もそう思っているだろうし、のび太君の両親も、家族同様に思っていると思う。

T：みんなの考えを聞くと、家族であるかどうかは、必ずしも血がつながっていないといけないというわけではないようです。それぞれが、家族だと思っているかどうか大切そうですね。血は繋がっていないけども何がつながっているのかな？

P：心がつながっている。

T：ドラえもんは、野比家の人々のことを家族だと思っているように、互いのことを思いやる心が通じ合っているかどうか家族であるためには大切なことですね。

35人いれば35通りの家族があります。だから、これから勉強する家族の学習では、自分の家族のことをあまり話したくないなあ…と思っている子も、クラスにはいるかもしれないことを心に留めておいて下さい。

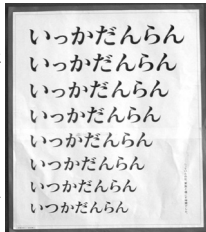
第1時では、様々な家族があることを知らせたいと思い、血縁関係のない家族についても触れた。授業クラスでは、一人親世帯が10%、親が再婚し、新しい家族のもとで暮らしている生徒もいる。そのため、様々な家族があることを知らせることで、家族の学習への抵抗感を軽減できるのではないかと考えた。この後、家族の



学習についてのアンケート用紙を配布し調査した。

（2）第2時：家族であれば心は通じ合えるのか

T：これから見せるのは、「家族」をテーマにした新聞広告で最優秀賞をとった作品です。広告をみて、心に何か思い浮かんだ人は挙手しましょう。



S男：「いっかだんらん」ってどういう意味？

T：（一家団楽の意味を説明する）

K男：最初の方は、一家団楽（いっかだんらん）となっているけれど、だんだん変わって最後は「いつかだんらん」になっている。「つ」の大きさは変わってなくて、他の字の大きさがだんだん小さくなっている。

Y男：一家団楽をしようと思っているんだけど、できなくて、いつのまにか「いつか団楽しよう」ということになっていってしまうということだと思う。

T：「一家団楽」と「いつか団楽」と、言葉の違いに気付くだけでなく、気持ちの変化にまで気付くことができている。では、「いつか団楽」は字も随分小さくなっているんだけど、声に出して読んだらどんなかな？

P：小さな声…

T：じゃあ、一家団楽の方は？

P：「大きな声」「元気がいい声」

T：皆で声に出して読んでみようか？

（元気よく大きな声で一家団楽と唱え、その後だんだん声を小さくしていつか団楽と唱える。）

T：今、声だけでなく、表情まで段々元気がなくなっていくね。実は、この広告には右下に小さく、ある文が書かれています。

「へっていたのは、家族と過ごす時間でした。」と書かれています。家族と共に過ごしたいと願っても、段々その時間が減り、いつか団楽できればいい…と気持ちまで小さくなっていくということだね…前の時間にアンケート調査をしました。小学生の頃と比べて家族と会話する時間がどのように変わったかを質問しましたが、その結果、1年1、

2組で53%の人が、減った、少しは減ったと感じているようです。家族と過ごしたり会話したりする時間の減少も含めて、世の中には、家族の間で様々な問題が起きています。本当は、家族は心が通じ合っているべきなのですが…そこで今日の課題は、

もっとも身近な関係である家族なのに、なぜ様々な問題が起きるのでしょうか。

T：では、ある新聞記事の紹介をします。

（記事の概要）「塾に行く」と言って出かけた中1女子生徒が、「今から帰る」と留守番電話にメッセージを残したが帰宅せず、母親が家出人捜索願を出し、情報提供を呼びかけるというもの

T：今、家族はどんな気持ちでいるのだろうか？（プリントに各自が記入した後に交流）

S女：母親はとても心配していると思う。早く見つかってほしいと願っている。

O女：お母さんは必死になって捜している。

T男：女性が誘拐されて殺害された事件がこの頃起きてたから物騒なので、心配している。

T：事件が起きた9月1日というのは、土曜日。2学期の始業式は9月3日だからすぐ始まる頃です。何かそのことと関係があるのかな？

H男：もしかしたら、女子生徒には学校の悩みや家での悩み…もうすぐ学校が始まるから嫌だという思いがあったのかもしれない。

T：きっと母親は、いろんなことを考えながら心配していたんだろうね…さて、この新聞記事のその後を紹介しましょう。

女子生徒は見つかり保護された。事件性はなく、デパートや飲食店を転々としていたとみられる。警察署の調べに対して女子生徒は「母親が教育熱心で厳しく、嫌になった」などと話しているという。

T：結末を聞いてどうですか？

（プリントに各自が記入した後に交流）

M男：親は、一生懸命、娘の勉強のサポートをしようとしている。でも、子どもは、それをとても負担に思っていた。

T：そんなに負担なら、言えばいいのになぜ子どもは言わなかったのだろうか？

M男：塾を辞めたら、また何か言われるに決

まっている。塾に行かせてもらっているわけだから、そんなことは言えない。だからずっと黙っていたと思う。

T：では、母親はどんな気持ちで塾に行かせていたのだろうか？

Y男：勉強が少しでもできればいいと、娘のことを思って行かせている。

T：でも、娘がそんな気持ちでいるとは思ひもしなかったんだね…毎日、一緒に生活していた家族なのに、どうして分かり合えなかったのだろうか？

M男：お互いに忙しくて話す時間も十分になかったり、言わない方がいいと、遠慮したりしてしまったからだと思う。会話しないと分からないと思う。

T：この親子の場合もそうだけれど、家族であっても、自分の気持ちを十分に話さないと、互いの心を分かり合うことはできないんだね。

(本時の学習の振り返りを各自がプリントに記入する)

ここでは、4名の抽出生徒の学習の振り返りの記述を継続して追ってみる。それぞれの家族形態や家族との会話、家族の自分への理解度等の状況のアンケート記入状況は表3の通りである。

表3 抽出生徒の実態

	K女	O女	S男	T男
共に暮らす家族	母と祖母	両親と姉	両親と妹 祖父母	両親と弟
小学生時と比べて	少しは少なくなった	以前より増えた	少しは少なくなった	少なくなった
その捉え	会話はしたいが時間がないのだから仕方がない	本当はもっと会話をすべきだと思う。	家族と会話なんてしたくないから別に構わない。	会話はしたいが、時間がないのだから仕方がない。
家に帰った時の気持ち	少しはほっとする	ほっとする	少しはほっとする	ほっとしない
家族の自分への理解の状況	少しは理解していると思う	よく理解していると思う	あまり理解していないと思う	よく理解していると思う

【K女の振り返りの記述 (第2時)】

話し合って相手の気持ちも考えつつ生活していくことが重要だと思った。でも、そんな風に見える時は少ないから、家族の団らんとか会話を大事にして生活すれば相手の気持ちを考えられるようになるし、お互いが楽しく暮らせるようになると思いました。私は最近、家族と話をしても口調がきつくなってしまうので気をつけたいです。

【O女の振り返りの記述 (第2時)】

私たちにとって家族はいなくてはならない大切な存在だということが分かった。また、家族は、自分の思いを受け止めてくれ、家族に安心して自分の思いを伝えられるような環境でなければ、家族との間に“かべ”ができてしまい、家族とのコミュニケーションができなくなってしまうので、このような環境は大切だと分かった。だから私は、家族と話す時間をもっと多くして家族との信頼関係をさらに強めていきたい。

【S男の振り返りの記述 (第2時)】

家族とはいつも一緒に生活しているから気持ちなんか分かっていて当然と思っていたけれど、今日の話は、母親の悪い気持ちはないのに、その人としては不満になったので共にいるだけじゃなく、話したりしないと気持ちが通じないこともあることが分かった。

【T男の振り返りの記述 (第2時)】

僕の母も教育熱心で、いつも勉強をしなければいけないというけど、僕はいやで、それを母は分かっているけど、一緒にいるだけでは人の思いは理解できていないと思いました。なので、これからは家族の思いを理解して行って、いい家族になるようにしていきたい。

S男は、中学生になってからの家族との会話を少しは少なくなったと捉えてはいるが、アンケート結果にもあるように、家族との会話の必要性をあまり感じてはいない。なぜならば、授業後の振り返りの記述にある「いつも一緒に生活しているから気持ちなんか分かっていて当然」

との見方があるからである。しかし、その見方が、「共にいるだけじゃなく、話したりしないと気持ちが通じないこともあることが分かった。」と変容したことがわかる。これは、やはり新聞記事を資料として取り上げたことにより、互いの気持ちの理解が不十分な親子を実感できたからだと思われる。

また、T男は、自分と母親との姿と重ねてみていることが分かる。「自分が嫌な気持ちであることを母は理解していない。だから気持ちが理解し合えるいい家族になりたい」と結んでいるが、そのために、何をどのようにすればよいかまで、具体的な考えが高まった状態ではないことがわかる。

（3）第3時：お互いの気持ちを分かり合うには？

T：（前時の振り返りをする）

この前は、新聞記事から家族であっても会話が不足していたり、互いのことを分かり合えずにいたりすると、心も通じ合わなくなることを学びました。今日は、お互いの気持ちを理解し合うための方法の一つとしてロールプレイングという活動を行って学習します。ロールプレイングとは、役割演技ともいわれ、立場の違う人の役割を演じることによって、相手の立場や気持ちを理解したり自分を理解したりするための方法です。今日の課題は「自分とはちがう立場になって、相手とのかかわりを考えよう」です。皆は今、中学生の立場です。急には親の立場にはなれません。だからなかなか親の気持ちが理解できません。反対に、親もそうです。だから、その立場になって実際に演じることで、気持ちの理解をしやすくするという事です。実際に演じてみるので見ていて下さい。

（場面紹介）中学生が勉強の休憩中に、テレビを見ていました。そこへ仕事で遅くなった親が帰宅しました。しかし、中学生はテレビに夢中で親に気が付きませんでした。（教師二人が、役割を示すペーパーサートの札を首にかけて、演じる）

父：ただいま（疲れた様子で…）

子：テレビを楽しげに見て笑っている

父：おい、〇〇（子どもの名を呼ぶ）

子：えっ？あっ おかえり（小さな声で）

父：テレビばかり見てるけど勉強はやらなくていいのか？（語気を強めて…）

子：えっ？テレビばかり見てるって言ったけど…今までずっと勉強してたよ！



父：本当か？でもテレビ見てたじゃないか！

子：だから、ちょうど今見始めたところなんだよ！ずっと見ていたみたいに見えるよ！今帰ってきたばかりだから分からないんだよ！（強い口調で）

父：何だ！親に向かってその口の聞き方は！

子：別に本当のこと言ってるだけじゃないか！本当のこと言って何が悪いんだよ！

（教師二人のやりとりをみて、生徒から笑い声が起きたりする）

T：はい、ここまで… どうでしたか？ちょっと中学生役の〇〇先生に聞いてみるね。演じてみてどうでしたか？

〇〇：本当にテレビを見始めたばかりなのに、ずっと見ていたみたいと言われてとても嫌な気分になりました。どうして信じてくれないのだろう？という気持ちにもなりました。

T：なるほど…では私に尋ねて下さい。

〇〇：どんな気持ちになりましたか？

父：やりとりの中で、「今帰ってきたばかりだから分からないんだよ」と言われた時にはそうかもしれないと本当は思ったけれど…でも、それを認めたくなくて…今更引けないという気持ちが強くて、素直に認められなかった。

だから、強い口調で話し続けてしまいました。

T：では、今度はみんなが、親、子供の立場になって演じてみます。プリントを配布するので、吹き出しにセリフを書き込んでみ

て下さい。(生徒の書き込む様子をみながら、言葉をかける)

T:では、実際に演じてみましょう。



隣同士でペアを作って、親役、子ども役を交代して演じてみる。

T:では、私と一緒にロールプレイングをしてくれる人?



(挙手をした生徒とペアとなり、親と子で演じる、写真は生徒が父親役、教師が子ども役となって演じている)

父:ただいま(疲れた様子で…)

子:テレビを楽しげに見て笑っている

父:おい、〇〇(子どもの名を呼ぶ)

子:えっ?あっ おかえり(小さな声で)

父:テレビ見てるけど勉強はやったのか?

(穏やかな口調で)

子:うん…今、ずっとやってきてちょうど休憩しようと思って見始めたところ…

父:おっ、そうかぁ、ところで何の番組見てるんだ?

子:えっ?番組の名前?あぁ お笑いの番組だよ(ちょっと拍子抜けした感じで…)

父:勉強大変だなぁ…がんばれよ!

子:うん!さぁ!もうひと頑張りしてくるか!

生徒と教師がペアとなって演じた際には、父役の生徒が声を荒げることなく、大変穏やかに子どもと話し、子ども役を演じた筆者自身、怒られるものとばかり思っていたのが違って、いらいらするどころか、次第に心が落ち着くことを実感することができた。その前にT1の教師とペアとなった演じた際には、言い合いになってしまい、相手の話し方そのものに腹を立て、大変感情的になっていく自分を感じることができた。ロールプレイングによって、立場の違う人を理解するとはこういうことなのだと、身をもって実感できた。この学習を終えての振り返りの記述は以下の通りである。

【K女の振り返りの記述(第3時)】

相手の立場になると、相手の言うことに対して怒ってしまうということが体験できました。私は最近、親にかなり反抗していて、それと同じようなことで、親はこんな感じなのかと考えることができました。

【O女の振り返りの記述(第3時)】

親子関係(家族関係)は、お互いの気持ちを分かりあうことが大切だと分かった。つつい感情になってしまうことがあっても、冷静にお互いに相手の話をよく聞いて生活することで、家族は気持ちよく過ごせ、また前回の授業で習ったことも起きないと思う。だから私は、これから家族はもちろん、友達同士でも感情的にならず、お互いの話をよく聞き、冷静に話し合っ気持ち理解しようと思う。

【S男の振り返りの記述(第3時)】

普段は何気なく会話している親も、その立場になってみると怒ったりしても心配する気持ちがあることが分かった。怒られても言い返すだけじゃなくて、しっかり親の気持ちを考えることが大切だということがわかった。

【T男の振り返りの記述(第3時)】

最近家族と一緒に過ごす時間が少なくなっていく、お互いの気持ちが理解できていないことが分かった。確かに僕の家でも少し休憩をしようとテレビを見ていると、母がすごく



怒るので一度家族で話し合っ、お互いの気持ちを理解していきたい。

ここでは、O女の感情的になって話してしまうのではなく、冷静に相手の話を聴くことが大切であることへの気づき、またS男の、親は怒ったりしていても本当は、子どもを心配する気持ちがあることへの気づき等の見方が表れている。

また、T男については、一度家族で話し合っ…という、第2時の振り返りと比べて、具体的な考え方がみられることがわかる。今回のロールプレイングの活動は、ある場面において親子の会話を体験しただけに過ぎない。よって、「家族で話し合っ」という具体的な方法を思いついたのは、T男なりの考えによるものであると思われる。

（4）第4時：家族の今、そしてこれから…  
第5時：家族の立場になって演じてみよう

T：（日本の人口比、特殊出生率を示す資料を提示し、気付いたことを発表する）

少子高齢化という言葉がありますが、自分の将来を考えてみましょう。家族とのかかわりは、どのように変化していくのだろう（家族の変化について交流）ロールプレイングのまとめの学習では、将来の家族を思い描いて「もし、こんな状況になったら…」という場面を考えて演じてみます。

互いの気持ちが通じ合うような家族とのかかわりを考えよう

（場面を紹介する）

T：グループで話し合っ場面を決めましょう。また、家族の役割についても分担を話し合いましょう。（黒板に決定した場面や役割を示す）



（班でシナリオを決定して話し合っ）

設定した場面は、生徒にとって身近な問題だけでなく（塾通いをする中学生）、今日的課題を盛り込み（高齢者の介護、女性の就労）以下の3つの場面とした。また、一文形式で始めるのではなく、物語形式とすることで、家族一人一人が置かれた状況の理解を図ろうとした。

【祖父（母）が倒れた！助けが無いと生活できない？困ったな…】（高齢者の介護の問題）

〇〇家は、三世代家族です。（祖父母、両親、子）中学生の太郎君は、最近、祖父（母）の体力が衰えていることが少しずつ気になっています。ちょっとした段差でも、よくつまずくようになりました。

そんな、ある日、散歩に出かけた祖父（母）が、転んで足を骨折をする大怪我をしました。体が思うように動かせず、誰かの助けがないと生活できません。太郎君の両親は共働きで、勤めから帰ってくるのは、ずいぶん遅い時もあります。祖父（母）が元気だった時でさえ、大変忙しい思いをしながら毎日生活してきました。

さて、祖父（母）の介護にかかわって、中央家では、この先どうしていくかを話し合っことになりました。

【えっ？母さんも働き始める？家の中のことは誰がやるの？】（女性の就労の問題）

〇〇家は、夫婦と子どもの家族です。これまでは、弟や妹が幼かったこともあり、働いているのは父親だけでした。花子さんが「ただいま」と、学校から帰宅すれば、いつも母が家には居てくれました。ところが、花子さんが中学生になったことや、近くに病院ができたこともあり、看護師の資格をもっている母は、「働きたい」と言い出しました。

花子さんは、中学生になり、部活や塾で忙しい毎日です。「もう、中学校生活にも慣れたでしょ？それに、これから、高校進学とかあると、いろいろお金もかかるしね…」と母は言います。

父親は「子どもたちの意見も聞いてみよう。」と、家族が全員揃ったある日、「母さんが働き始めたいと言っているんだが…」と話し始めました。この後、どんな会話がされるでしょうか？

【塾, 辞めたいなあ…でも言い出せないなあ…】

(中学生の塾通い)

一郎君は、中学生。両親は共働きです。「部活動と勉強の両立をする」と、これまで生活してきました。ところが、期末テストの結果がよくなく、半ば強引に塾に通うことになりました。

塾の宿題も多く、学校の宿題をこなすだけでも大変なのに、正直、最近、塾を辞めたいと思っています。でも、なかなか言い出せません。そんなある日、塾の宿題が出来てない一郎君は、その日、「塾に行ってくる」と家族には嘘をつき、塾をさぼってしまいました。塾が終わる頃に自宅に戻った一郎君が遅い夕食をとっていると…運悪く、塾の先生から、自宅に電話がかかり、塾をサボったことが家族にばれてしまったのです。おまけに、父親も、ちょうど帰宅しました。さて、この後、どんな会話がされるのでしょうか？



【シナリオの実際】

【1班：塾辞めたい】

母：もしもし…えっ？  
 父：どうしたんだ？代われ…はい、分かりました。おい、一郎、今日、塾サボったのか？  
 中学生：だって…塾、行きたくないんだもん。  
 父：じゃあ何で俺に言ってくれなかったんだ？  
 中学生：だって～  
 姉：父さん…ちょっとは一郎の気持ちを考えてよ！  
 妹：そうだよ、お兄ちゃんがかわいそうだよ。  
 父：そうか、すまんかったな一郎、父さんは一郎の気持ちを考えていなかったよ。じゃあ塾やめるか？  
 中学生：まっってお父さん…僕もうちょっと頑

張ってみるよ

父：わかった、がんばれ一郎！

T男は、この班のメンバーであり、父親役を担当している。このシナリオには、勉強のことで親からいろいろ言われ、自分のことを理解してくれていない、家族で話し合い、互いの気持ちを理解し合いたいというT男の思いが溢れた展開となっている。第6、7時には、実際に班単位で演じ交流会を行った。その際には、「誰のどの言動が、家族の心を動かしたのだろうか」との課題で、心を動かされた言動に着目してプリントへの記入を行った。抽出生徒の交流会の記述を紹介する。

【S男の1班に対する交流会の記述】

親があまり怒らず、最後は一郎の気持ちを考えて応援しようというようになったので、一郎もがんばろうという気になったと思う。

【O女の1班に対する交流会の記述】

(一郎)を、「そんなに責めてばかりでかわいそう」という姉や妹の一言で、父親の一郎に対する気持ちが変わって少し和やかな感じになったところがよいと思った。

4. まとめ

本研究により次の点が明らかとなった。

- ロールプレイングの目的である「立場の違う人の役割を演じることによって、相手の立場や気持ちを理解したり自分を理解したりする」ことを、十分に実感できるように、ペアによるロールプレイングを学習過程に位置付けたこと、家族一人一人の状況の理解を図るために、物語形式で場面の設定を行ったことで、親との対立の傾向が強かったシナリオが、家族それぞれの立場を互いに理解し合う展開となった。
- 家族は変化していくとの構えで学習過程を仕組んだことで、生涯発達の視点を盛り込んだ場面にも積極的に取り組むことができた。今後、次の点について研究を深めていきたい。
- 学習後の生徒の意識や、ロールプレイングを取り入れた題材の学習に対する保護者の意識を調査することで、題材の改善点を明らかにしたい。